



男、78歳 いろいろ

岡田 安弘

中学で同級の俳優、津川雅彦（本名、加藤雅彦）が肺炎であの世に旅立った。直後に開かれた同窓会で黙祷、冥福を祈る。二次会は、加藤の噂話をきっかけに、昭和15年生まれの有名人を酒の肴に盛り上がる。「芸能人、スポーツ選手は多いけど、学者、政治家がおらんなあ。俺らはどっちでもないけど」。無名の我々は笑い合うしかない。

後日、友人がメールで、たくさんのお名前を送ってきた。78歳の代表は大鵬、王貞治と言う。「巨人・大鵬・卵焼き」が流行語だった。

スポーツ界では他に張本勲、板東英二、芸能界はテント劇場の唐十郎、原田芳雄、中村敦夫、山本圭、作家・評論家は村松友視、立花隆、写真は篠山紀信、将棋の加藤一二三、ジャーナリストの鳥越俊太郎らを列記。

ブルース・リー、ジョン・レノン、リンゴ・スター、ジャック・ニコラウスのお名前をあげた西洋かぶれもいた。女性はデヴィ・スカルノ（元インドネシア大統領夫人）と浅丘ルリ子ぐらいか。政治家は麻生太郎のほかには思いつかない。

昭和15年生まれは、NHKのTVドラマ「事件記者」を楽しみにした世代だ。私も夢中で観た。かつて加藤は、事件記者になるのが夢だと級友に語っている。多くの記者を輩出した早稲田大をめざし、高校は早稲田実業へ。

祖父のマキノ省三は日本映画の父と言われた映画プロデューサー。阪東妻三郎、片岡千恵蔵、嵐寛寿郎、市川右太衛門らを育てる。兄に長門裕之、叔父は加藤大介、叔母は沢村貞子。

加藤は映画「山椒大夫」で厨子王の少年時代を演じるなど、しばしば子役に使われ、学校の出席日数が不足。どこで留年したのだろう、中学2年に編入してきた。早生まれだから本来なら1学年上のはずだ。

私の幼馴染の同級生が、転勤先の松山に激励に来てくれたことがある。小宴に同席した後輩を前

に「岡田も中学のころから新聞記者になると言っていた」と明かす。私は覚えていない。加藤と同じと言われたのが嫌だった。ライバル心を感じたのは確かだ。初めて経験した嫉妬だったのだろう。

加藤は早速、生徒会長選に立候補した。女性票しか集まらず落選。いや、出馬辞退したのだと言う仲間もいる。みんな記憶があやふや。はっきりしているのは、彼が野球部に入ってきたので私が退部したことだ。

石原裕次郎が日活の「狂った果実」でデビュー。加藤は弟役。津川のお名前が売れる。もてもての噂ばかり耳にする。デヴィ夫人との恋愛騒動などで仕事を干された。

女優朝丘雪路と結婚、長女で役者の真由子は生後5ヶ月で誘拐される。「借金だらけ、犯人からの要求額があるわけもなし」。こんなことを週刊誌に書かれていた。

津川を偲ぶNHKの番組で、真由子は父を語っている。「トラウマになってはいけなから父は事件のことを教えてくれなかった。中学生になって校長先生から初めて聞いた。母は、私にお金あるわよと言ったそうです」。津川のお閉ざされた扉を朝丘が開く。

朝丘の葬儀をTVで見た。インタビューを受ける津川は、鼻に酸素吸入器をつけていた。「真由子を産んでくれたこと、(彼女の) 家を買ってくれたこと、感謝しかありません」。私は思わず遠くへ思いを馳せた。あれから60余年かあ。

兄の長門を越すのが目標で、主役しか頭になかった津川。叔母の沢村から「お前は顔がいいのだから、芝居は4倍の努力をしないと主役なんか回ってこない」と叱咤され、以後は脇役に徹す。

彼の右翼思想は好きになれないが、晩年の出演には見るべきものがある。伊丹十三作品で本領を発揮し見事に復帰。俳優というよりマキノ一家の秘蔵の役者だったと言いたい。

人の名前ばかりでマスを埋めてしまった。おっと、忘れるところだ。「奈良判定」で名を馳せた日本ボクシング連盟の山根明・前会長と、福島原発事故当時の東電経営トップ、勝俣恒久・元会長が同い年だ。